

2023年度
第3回 理事会議事録

2023年 7月 11日

一般社団法人 全国鐵構工業協会

2023年度 第3回理事会議事録

1. 日 時 2023年7月11日（火） 14:00～16:40
2. 場 所 全構協 第1会議室
3. 構 成 員 14名
4. 出席構成員 14名（別紙 出席者名簿参照）
5. 議事次第
 - (1) 開会の辞
 - (2) 定足数確認報告（定款第36条）
 - (3) 会長挨拶
 - (4) 前回理事会議事録の確認
 - (5) 報告事項
 - 1) 50周年記念式典・祝賀会 予定及び運営要領について
 - 2) 技能者（現場溶接工、鍛冶工）能力評価制度への参加の件
 - 3) 委員会等活動状況報告
 - ① 中期ビジョン検討委員会
 - ② 人材育成委員会
 - ③ 技術委員会
 - ④ 運営委員会
 - ⑤ （仮称）建築鉄骨技能検討WG
 - ⑥ （仮称）図面問題対応検討WG
 - 4) 特定技能外国人材対応について
 - 5) 2023年度共同陳情活動について
 - 6) 賛助会員との懇談会実施について
 - 7) その他（諸物価高騰時の対応等）
 - (6) その他の定例報告事項
 - 1) 構成員登録状況
 - 2) 着工面積と推計鉄骨需要量
 - 3) 2023年度主要会議日程
 - 4) 支部報告
 - (7) 閉会の辞

6. 議事要旨

(1) 開会の辞

進行役の小貫専務理事より開会する旨が告げられた。

(2) 定足数確認報告

小貫専務理事より、本理事会は 14 名すべての理事が出席されており、定款第 36 条（理事会の定足数）に基づく成立要件となる定足数が満たされていること、また、監事は五月女監事 1 名がご出席、村上監事はご欠席であることが報告された。

(3) 会長挨拶

永井会長より「先月総会も無事終了し、任期の半ばを過ぎ、後半に向けて頑張っていきたいと考えています。また、明日は、50 周年式典という大きなイベントもあります。引き続き、皆さんの協力をいただきながら進めていきますのでよろしくお願ひします。」との挨拶があった。

(4) 前回理事会議事録の確認

小貫専務理事が、2023 年度第 2 回理事会の要点を読み上げ、確認、了承された。

(5) 報告事項

1) 50 周年記念式典・祝賀会 予定及び運営要領について

「50 周年記念式典・祝賀会 予定及び運営要領」について、別冊の資料にそって平井総務部長から説明され、確認された。

2) 技能者（現場溶接工、鍛冶工）能力評価制度への参加の件

技能者（現場溶接工、鍛冶工）能力評価制度への参加について、議案書（p3-6）にそって、新村技術部長より以下の内容が説明され、確認された。

- ・現状、現場溶接工、鍛冶工の能力評価方法がない。今後、能力評価を行っていくためには、独自の能力評価基準を作成し、能力評価実施団体の設立等が必要になる。
- ・鉄建協は、本件の推進にあたり、国交省と協議し、準備を進めている。
- ・一方、本対応については、現溶協が主体的に実施すべきものである。また、講習会開催等について、教育センターの役割等、現時点議論されていない。（全構協の対応方針について）
- ・現場溶接工、鍛冶工は分けて、議論する
- ・現溶協が主体となって、能力評価実施団体の運営を行うこと
- ・講習会・試験の実施については、採算性に目処がつかない限り運営には参加しない

3) 委員会等活動状況報告

① 中期ビジョン検討委員会

「中期ビジョン検討委員会」について、議案書（p7）にそって大島副会長より以下の内容が説明され、確認された。

- ・委員会の中で議論を重ね、ビジョン、ミッション、パーパスという形で、協会のありたい姿をまとめた。
- ・今後は、他業界を含めた経済予測や将来像について、日建連、鉄鋼メーカー、国交省・経産省等にヒアリングを行っていききたい。

② 人材育成委員会

「人材育成委員会」の内容について、議案書（p8）にそって、小貫専務から説明があり、確認された。内容は以下の通り。

- ・「人づくり研修WG」の第1回を開催した。
- ・第1回はフリーディスカッションを行い、意見の取りまとめを行った上で、今後の議論に繋げていく。第2回は、8月3日開催予定。

③ 技術委員会

「技術委員会」について、議案書（p9）にそって佐藤理事より説明され、確認された。内容は以下の通り。

- ・委員会の議論としては、「溶接施工WGの活動」、「品質不具合事例の調査」「技術者・技能者資格一覧」の協議を行った。
- ・「技術者・技能者資格の一覧表」については、管理し易いエクセルデータを作成し、利用方法のマニュアルと併せて、HPに公開予定。

④ 運営委員会

「運営委員会」については、議案書（p10-14）にそって、妹尾理事より説明され、確認された。内容は以下の通り。

- ・今年も「会員企業業績調査」を実施するので、協力をお願いしたい。
- ・内容的には、例年同様の業績関係を中心に、従業員等に関する情報、働き方改革関連の情報について回答をお願いしている。
- ・回答の方法については、「マイクロソフトフォーム」を使用し、構成員企業が直接回答できる仕組みにしている。一方、従来型の回答方法も確保しており、回答率の向上を図りたい。また、回答状況情報については、全構協事務局から定期的に組合事務局へ発信し、回答率向上の対応に繋げたい。

⑤（仮称）建築鉄骨技能検討WG

「建築鉄骨技能検討WG」について、議案書（p15）にそって秋山理事より以下の内容が説明され、確認された。

- ・建築鉄骨特有の技能として「鉄骨組立」に焦点を当て、技能の確認方法として実技試験の試験内容を検討した。
- ・試験時間、審査基準、資格の難易度、必要とされる知識等が協議された。

⑥ (仮称) 凶面問題対応検討 WG

凶面問題対応検討 WG のメンバーについて、平井総務部長から報告があった。

- ・リーダー：秋山理事
(メンバー) 渡辺福島県理事長、柏原中部支部長、藤田奈良県副理事長、川野大分県理事長

尚、秋山理事 (WG リーダー) からは、なるべく早い時期に第 1 回の WG を対面で開催し、議論を開始したいとの意見が出された。

4) 特定技能外国人材対応について

特定技能外国人材関について、議案書 (p17) にそって、以下の内容が、平井総務部長から、説明された。

- ・経産省への要望書の提出については、6 月の理事会において説明済み。
- ・6 月 27 日に、経産省に対して正式に提出を行ったので報告する。

尚、別件として、特定技能に関する実態調査の一貫で、経産省が福岡県のファブを視察する計画があることが、報告された。

5) 2023 年度共同陳情活動について

2023 年度共同陳情活動について、議案書 (p18-25) にそって平井総務部長より説明があり、確認された。内容は以下の通り。

- ・6 月の理事会で事前報告を行っているが、来週から 2023 年度の陳情活動がスタートする。本年度は、コロナ前の対応を前提として計画しており、東京地区では、ゼネコン、設計事務所、鉄鋼メーカー、計 18 社を予定している。三役を中心に、ご対応いただく予定。
- ・要望の内容としては、「繁忙期に向けた取組み」、「凶面遅れ」、「働き方改革」を大きなテーマとして、準備している。

6) 賛助会員との懇談会実施について

賛助会員との懇談会実施について、議案書 (p26) にそって、平井総務部長より以下の内容が説明され、確認された。

- ・賛助会員との懇談会について、本年は、コロナ前対応を前提に計画している。賛助会員に対して、予定に入れてもらうべく、事前の発信を実施。
- ・具体的な内容・進め方については、今後準備を進めていくが、次回理事会の日程等もあり、進め方等については、三役に一任することとさせていただく。

5) その他

① 諸物価高騰時の対応について

諸物価高騰時の対応について、議案書 (p27) にそって、平井総務部長より以下の内容が説明され、確認された。

- ・本ひな型文書は、東北支部からの要請もあり、整理したもの。
- ・鋼材価格だけでなく、その他副資材、エネルギーコスト等を含めた、諸物価高騰時の対応として整理した。
- ・一方、具体的な要請の内容等については、各地域の状況又は申入れ先により、一律ではないと想定される。要望の背景等の鏡の部分以外は、各利用者側で、作成して使っていただく方式とさせていただく。
- ・作成した文書については、全構協に事前に提出していただき、確認の上、会長の名前を入れたものを連名等で使用する方式とさせていただく。

②技術委員会関連（CAD 関連調査、品質保持状態の確認）

新村技術部長より、「CAD ソフトに関するアンケート調査」、「工場認定条件の保持状況確認調査」について、スケジュールの確認があった。

(6) その他の定例報告事項

1) 構成員登録状況

2023 年 7 月 6 日時点の構成員数は、前回報告時(6 月 16 日)より 2 社減少し、2,176 社であること等が、議案書(p29-33)により報告された。

2) 着工面積と推計鉄骨需要量

2023 年度 4 月、5 月の鉄骨需要量は前年比でマイナス、単月でも 5 月は、30 万ト割れとなっており、やや不透明な状況。注視していく必要がある。

3) 2023 年度主要会議日程

主要会議日程が、議案書(p35)により確認された。

4) 支部報告

[中国]

- ・ Hグレードは、概ね堅調。M以下のファブは、厳しい状況継続。特に、山陰地区は、地元の仕事が少なく厳しい。
- ・ C L Tへの置き換えが進展。あらためて、S造化の取組み強化が必要。

[四国]

- ・ Mグレードについては、山積みやや縮まっている。稼働率は、概ね高めで推移しているが、今後については不透明。
- ・ 見積りは相変わらず厳しい状況。加工賃は、やや下降気味。
- ・ 引き続き、適正価格の確保に努めていく。

〔九州〕

- ・足元の豪雨の影響について、工場の被害としては、福岡で1件浸水被害の報告あり。その他、従業員の方の暮らしへの影響が心配される。
- ・見積りについては、若干の回復傾向あり。沖縄もやや改善状況。
- ・北部九州については、比較的堅調な環境もあり、労務問題、労務費用の増加等が懸念される。

〔近畿〕

- ・稼働率は概ね100%レベル。但し、グレード間、地域間で差が出ている。引続き、情報の共有・交換を行っていく。

〔中部〕

- ・山積みについては、やや縮んでいる状況、見積りも少なめ。
- ・今後の見通しについては、工程のずれが多数発生し、結果物件の集中が懸念される。図面の修正、変更に振り回されている。中小の案件が少なく、取り合いの状況もある。
- ・価格転嫁については、労務コストを中心に厳しい。

〔北陸〕

- ・手持ち工事、稼働率ともに著変なし。概ね、仕事量は確保している状況。
- ・地元の中小案件は少なく、Mグレード以下は先行きにやや不安あり。
- ・価格転嫁は、少しずつ浸透はしているが、まだまだ不十分。

〔関東〕

- ・稼働率は、大きな変化なし。
- ・ゼネコンの物決めが遅い、追加・変更が多いとの意見が多数出ている。
- ・地方にいくほど案件が少ない傾向。また、運送コストの急激な上昇という問題もあり、厳しい状況。

〔東北〕

- ・工事量、稼働率等、環境的に大きな変化なし。見積りは減少傾向。
- ・中小物件を中心に、案件が少なく不透明感あり。

〔北海道〕

- ・一部の地域において、農業関連の仕事が激減して厳しい状況あり。
- ・見積り物件は少ない状況、単価も下降気味。
- ・半導体工場は、ラピダスを中心に周辺部分を含め、仕事が出てきそう。

その後、50周年の記念PR映像を視聴

(7) 閉会の辞

以上をもって、報告事項、その他の定例報告事項等、予定された全ての事項が終了したので、議長は閉会を宣し散会した。

以 上

(別 紙)

出席者名簿

会 長	永 井	毅
副 会 長	大 島	嗣 雄
〃	大 竹	良 明
専務理事	小 貫	武
理 事	佐 藤	正 記
〃	三 浦	隆 宏
〃	秋 山	順 一
〃	寺 田	健 信
〃	柏 原	正 明
〃	出 雲	津 芳
〃	妹 尾	一 人
〃	登 尾	昌 弘
〃	岩 永	洋 尚
理 事(相談役)	米 森	昭 夫
監 事	五 月 女	久 和

理事総数	14名	うち出席者	14名
監事総数	2名	うち出席者	1名 [欠席：村上監事]